

# 「市街地におけるミヤマガラスの飛来数調査」

## 調査報告書

令和6年(2024年)3月

日本野鳥の会熊本県支部

## 1. 調査の目的

市街地におけるミヤマガラス被害軽減対策として、忌避音声を用いた追払いを実施するにあたって、その効果を検証するために対策実施前後のミヤマガラスの飛来数等を調査するもの。

## 2. 調査の概要

### (1) はじめに

冬鳥であるミヤマガラスは、熊本には10月半ば頃に渡来し、翌年3月頃に大陸の繁殖地へ渡去する。熊本では夜間に集まって眠る「集団ねぐら」を形成し、昼間の採餌場である郊外の田園地帯との間を毎日行き来している。従来は、ねぐらを熊本市郊外の山林に作ることが多かったが、数年前から、熊本市の中心部に集まるようになった。今回、中心市街地でねぐらを形成するミヤマガラスを対象として個体数の調査を行うこととした。

### (2) 調査地点

①「花畠ねぐら」(熊本市中央区花畠町の花畠公園とその周辺)

### (3) 調査期間

2023年11月1日～2024年3月31日

(調査期間内に花畠ねぐらで2回の羽数調査を行う)

### (4) 調査方法

11月中旬に事前調査を行い、「花畠ねぐら」に集まるミヤマガラスの飛来コース、就壠状況等を観察した。事前調査はミヤマガラスが飛来し始める、16時頃から暗くなってねぐら入りする、18時頃まで行った。

① 「花畠ねぐら」への飛来コースで羽数が多いのは、

A:南熊本駅付近から代継橋を通るコース

B:長六橋から肥後銀行を通るコース

また、ABに次いで羽数が多いのが、

C:熊本市内東部から銀座橋付近を通るコース

D:南西方向から泰平橋付近を通るコース

これ以外の西から北東にかけては、飛来が無かった。

② 「花畠ねぐら」へ飛來したミヤマガラスは、繁華街のビルの屋上で就壠までの時間を過ごすことが多かった。以前多かった熊本城内の樹木での休憩は、あまり見られなかった。

③ 最終的には、花畠公園内の樹木(主に樹齢6～700年ほどのクスの巨木)と公園周辺の街路樹(主にイチヨウ)や電線に多くが止まっていた。また電車通りと下通の間に広がる繁華街の街路樹や電線でもかなりの数が観察された。繁華街のビルの屋上で夜すごすミヤマガラスがいる可能性もあるが、暗くて確認することは出来なかった。

以上の事前調査結果を踏まえて、表3に示した St.1～St.4 の4調査地点を設定し、早朝ねぐらから餌場へ向かう群れをカウントする調査方法を選択した。

### 3. 調査実施状況と調査結果

#### (1) 調査日時

1回目および2回目の調査を以下の日時で行った。

表1:ミヤマガラス調査日時表

調査回	調査日	調査時間帯	日出時刻
1回目	2023年11月18日(土)	6:00~7:30	6時49分
2回目	2024年1月27日(土)	6:30~8:00	7時16分

#### (2) 気象状況

調査時の気象条件は以下のとおり。

表2:ミヤマガラス調査時の気象条件

対象	調査日	天気	気温	湿度	風速
1回目	2023年11月18日(土)	曇り	7.5°C	75%	4m
2回目	2024年1月27日(土)	晴れ	-1.2°C	88%	1m

#### (3) 調査地点及び調査員の数

調査地点は、「花畠ねぐら」の北東～南東をカバーする4地点を St.1～St.4 と設定し、それぞれ必要人員を配置した。(表3)

朝6時半から7時半頃まで、ねぐらを飛び立って餌場に向かう群れを各調査地点よりカウントした。(図1～図2)

表3:ミヤマガラス調査地点

対象	調査地点	調査範囲	調査員
1回目	St.1 長六橋1	長六橋下流	1名
	St.2 長六橋2	長六橋上流、代継橋まで	2名
	St.3 代継橋	代継橋上流、銀座橋まで	1名
	St.4 大甲橋	大甲橋下流、銀座橋まで及び大甲橋上流	2名
2回目	St.1 長六橋1	長六橋下流	1名
	St.2 長六橋2	長六橋上流、代継橋まで	2名
	St.3 代継橋	代継橋上流、銀座橋まで	1名
	St.4 大甲橋	大甲橋下流、銀座橋まで及び大甲橋上流	2名

(4) 第1回目調査結果

①ミヤマガラスの調査地点別個体数

表4:ミヤマガラス 調査地点別個体数(1回目)

対象	調査日	調査地点	羽数
1回目	2023年11月18日(土)	St.1 長六橋1	3,007
		St.2 長六橋2	3,288
		St.3 代継橋	1,041
		St.4 大甲橋	1,361
			8,697

表5:ミヤマガラス 時系列個体数(1回目) 日の出、6時49分

時刻	長六橋 1	長六橋 2	代継橋	大甲橋	合計
6:20	0	15	0	0	22
6:25	3	121	5	27	156
6:30	201	188	11	27	427
6:35	1,050	593	27	41	1,711
6:40	469	503	43	22	1,037
6:45	585	473	76	156	1,290
6:50	346	428	227	251	1,252
6:55	208	350	332	195	1,085
7:00	0	307	118	345	770
7:05	43	167	66	123	399
7:10	31	42	78	115	266
7:15	28	57	31	30	146
7:20	40	34	20	22	116
7:25	3	10	7	0	20
7:30	0	0	0	0	0
合計	3,007	3,288	1,041	1,361	8,697

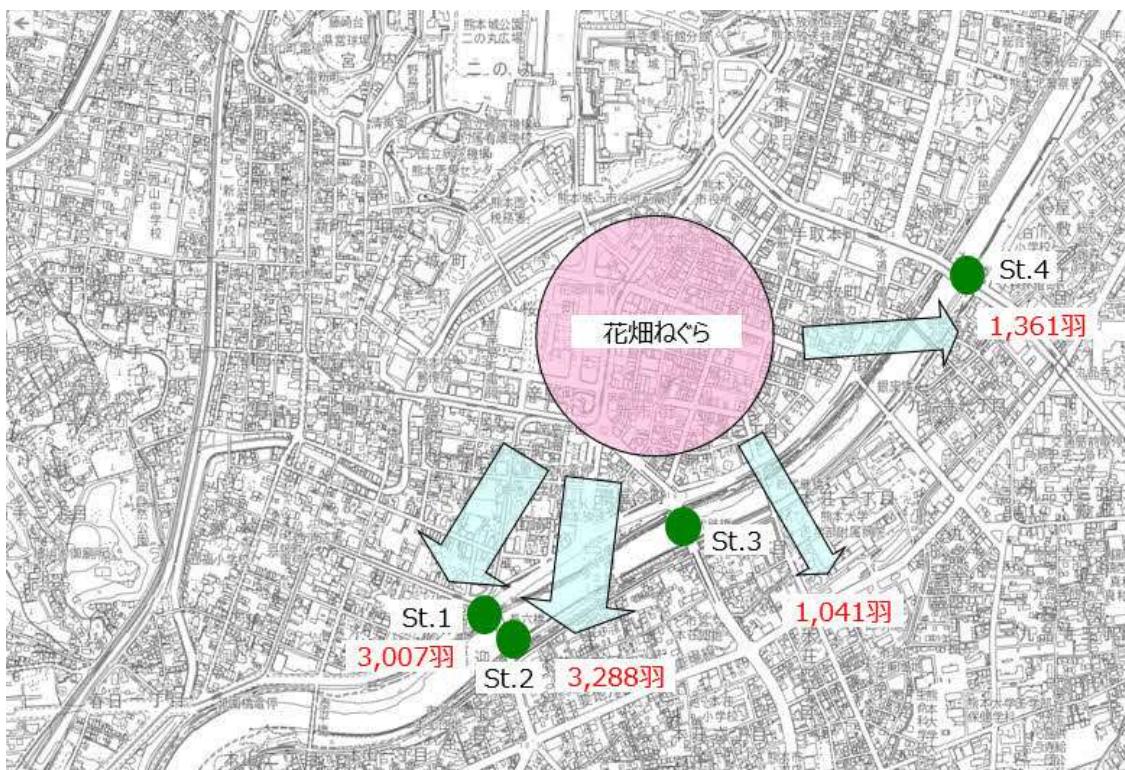


図1:ミヤマガラス 1回目調査「花畠ねぐら」の調査地点とねぐら立ちの方向別羽数

(5) 第2回目調査結果

①ミヤマガラスの調査地点別個体数

表6:ミヤマガラス 調査地点別個体数(2回目)

対象	調査日	調査地点	羽数
2回目	2024年1月27日(土)	St.1 長六橋1	670
		St.2 長六橋2	1,919
		St.3 代継橋	830
		St.4 大甲橋	1,361
			4,781

表7:ミヤマガラス 時系列個体数(2回目) 日の出、7時16分

	長六橋 1	長六橋 2	代継橋	大甲橋	合計
6:20					0
6:25					0
6:30			1		1
6:35		20	70		90
6:40		12	41	7	60
6:45		87	71	13	171
6:50		13	5	26	44
6:55	2	10	6	22	40
7:00	446	500	13	11	970
7:05	123	449	400	1,035	2,007
7:10	70	384	100	37	591
7:15	22	245	60	104	431
7:20		92	10	66	168
7:25	5	97	28	39	169
7:30	2	5	15	2	24
7:35		2	10		12
7:40		3			3
7:45					
合計	670	1,919	830	1,362	4,781

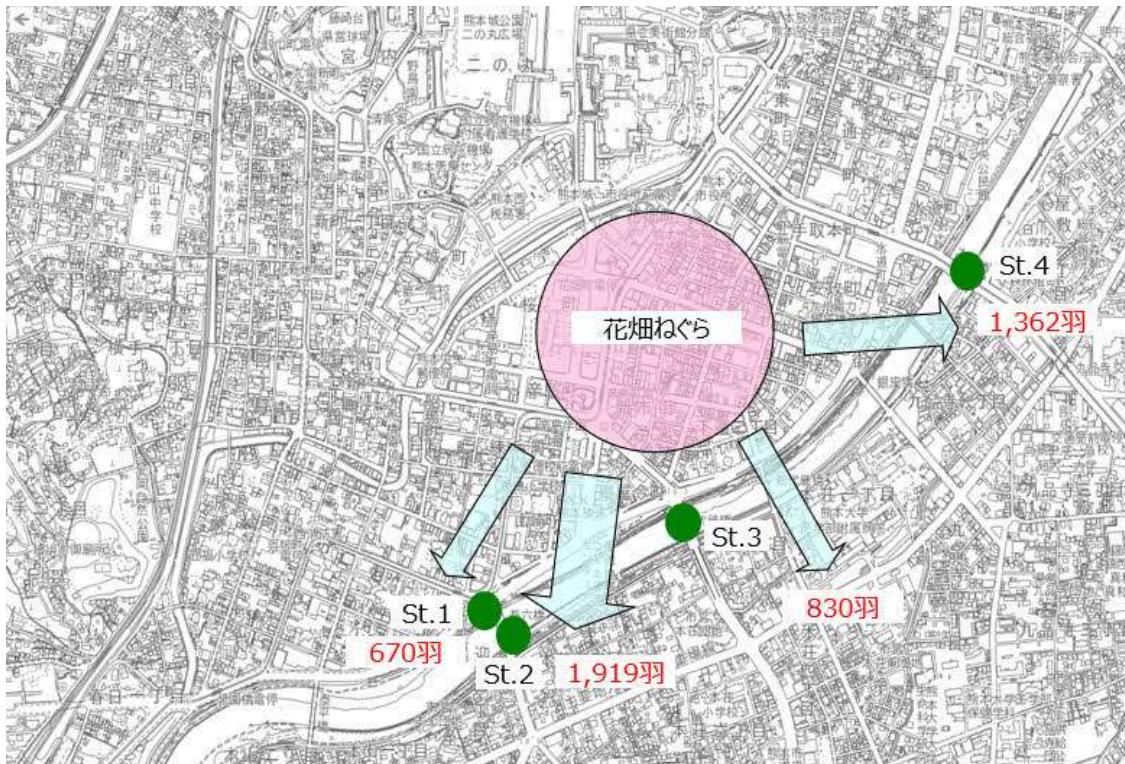


図2:ミヤマガラス 2回目調査 「花畠ねぐら」の調査地点とねぐら立ちの方向別羽数

#### (6) 種類別の羽数

「花畠ねぐら」はミヤマガラス以外に、同じ冬鳥のコクマルガラス、留鳥のハシブトガラス、ハシボソガラス、が利用する。早朝ねぐらから飛び立っている状態でのカウントでは、これらを正確に判別することは困難である。コクマルガラス、ハシブトガラス、ハシボソガラスの羽数を推定し、ミヤマガラスの羽数を算出した。

表8:種類別の個体数

対象	調査日	(A) 総数	(B) コクマルガ ラス (推定)	(C) ハシブト・ハ シボソ (推定)	(D) ミヤマガラ ス羽数 $D=A-B-C$
1回目	2023年11月18日 (土)	8,697	160	700	7,837
2回目	2024年1月27日(土)	4,781	82	700	3,999

※餌場での調査等からコクマルガラスはミヤマガラスの群れの中に2%含まれていると仮定。

※ハシブトガラス・ハシボソガラスは、花畠公園で夏場に観察された700羽がそのままミヤマガラスの群れに混じっていると仮定した。

#### 4. まとめ

「花畠ねぐら」を飛び立ったミヤマガラスは、第1回目の調査が8,697羽、第2回目の調査が4,781羽であった。第2回目が4,000羽ほど少なくなっているが、1月はまだ大陸の繁殖地へ渡去する時期ではないため、県内の他のねぐらへ移動したと考えられる。飛び立つ方向を調べてみると、St.1の長六橋下流を通り、南南西へ向かうコースの減少が大きいことがわかる。このコースの先には、熊本市南区の鹿児島本線より西側に広がる田園地帯があり、このあたりの稲刈り後の水田が採餌場となっている。ミヤマガラスがねぐらとして利用している場所は、熊本市西区の金峰山山系にも確認されており、そちらへの移動があったことが想像される。